

1. 第15回合同部会①の進め方

「ヨシ焼きの継続実施とヨシの新たな利用」について

- (1) 前回の協議内容 ※グループワークでの意見等は別添（参考1）のとおり
- ① H29年の実施結果を踏まえたH30年の改善点について、事務局より説明
 - ② H30年ヨシ焼き広報用チラシの掲載内容についての改善点など意見交換
⇒H31年ヨシ焼き実施時の広報等に反映・活用していく。
 - ③ ヨシ焼き実施に合わせた具体的な取り組み案について、事務局より提示
(案1～案5)

(2) 今回の進め方

グループワークで以下のことについて、意見交換を行う。

- ① ヨシ焼き広報用チラシの検討結果を報告（H31年チラシ原稿について）
 - ・前回の意見を踏まえ作成したチラシ原稿について、意見を伺う。
 - ・ヨシ焼きの効果や必要性を周知するために有効な手段や取り組みは？
 - ・今年反映できなかった点や今回出た意見については、来年以降に活用していく。
- ② 前回事務局より提示した案1～案5について、グループワークで意見交換

- 案1** 協議会の取組みとして、①わたらせ未来基金主催の「ヨシ刈りデー」（ヨシ焼き実施前に実施）への参加を呼びかける。
- ②ヨシ刈りデー参加者を対象としてヨシ焼き当日の見学とヨシ焼き実施後のヨシや希少植物の芽吹きを見てもらう観察会をセットで開催する。

※前回、ヨシ焼き見学と観察会のセット開催は難しいのではとの意見があったが、「ヨシ刈りデー」や「植物観察会」など既存の事業を活用することを提案したい。

例) 2月 ヨシ刈りデー⇒3月 ヨシ焼き見学ツアー⇒4月 春の植物観察会
⇒(夏) つばめのねぐら入り観察会⇒(秋) 植物観察会⇒(冬) 野鳥観察会



ヨシ原の1年の移り変わりや、ヨシ焼き実施の効果も実感していただける

案2 ヨシ採取者の協力を得て、①ヨシ刈り体験を実施。②刈り取ったヨシを材料として提供し、ヨシ細工作品を募集する。③周辺施設や地域で開催される桜まつりなどのイベント会場等に展示する。

案3 ヨシ細工（ミニヨシズ、ヨシ紙）を地域の工芸品などと組み合わせ、オリジナルグッズを作り、土産品として活用する。

案4 周囲堤付近の防火帯として刈り取った箇所の細かいヨシを活用したもの。

案5 ヨシ原浄化施設のヨシを活用したもの。

その他 ヨシ活用事例より、遊水地においても取組み可能なもの